



11月20日、コンベンションセンターにて「第31回J A北海道大会」が開催されました。

この大会は、J A北海道中央会会長を大会実行委員長に、各連合会役員、各地区組合長、青年部・女性部の全道組織会長が大会実行委員となり、3年に1度、全道のJ A関係者が結集し、今後3年間の展望やJ A経営を取り巻く事業環境をふまえ、J Aグループ北海道が一丸となって実践すべき事項に焦点を絞って議案を設定し、大会決議を通じて関係者の意識・目線を統一することを目的に開催されています。

J A・中央会・連合会関係者等、約3,000名が結集し、当J Aからも青年部・女性部・役員33名が参加しました。

第31回J A北海道大会のメインテーマは

「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」くひとを育み、ひとと育むでした。



当J A役職員の様子

樽井会長 開会挨拶

大会実行委員長を務めたJ A北海道中央会樽井功会長は、開会挨拶にて食料・農業・農村基本法が改正され、食料安全保障強化と持続可能な道農業の確立に向けて、「生産現場の行動変容の加速が必要。今大会はJ Aグループ北海道の将来ビジョンや組合員・J A・連合会の役割を確認し、関係者の意識・目線を統一するもの。」と話されました。



樽井会長の開会挨拶

来賓挨拶

来賓として、鈴木直道 北海道知事より挨拶がありました。鈴木知事は、「北海道が今後日本の食を支えるという大きな役割を果たしていくためには、本道農業が将来にわたって生産力を維持・向上していくことが重要で、道としては、今後策定される国の基本計画において本道農業の位置付けが明確にされるよう、国に対して積極的な働きかけを行うなど、J Aグループ北海道の皆様と連携しながら、本道農業の持続的な発展に向け取り組んでいく。」と話されていました。



鈴木直道 知事の挨拶

末松 広行氏 記念講演

大会前には、元農水省事務次官の末松広行氏より「新たな食料・農業・農村基本法における北海道農業の目指すべき方向」をテーマに記念講演が行われました。食料安全保障の重要性が世界の共通認識となり、農業生産の確保が一層重要になると指摘。農業振興を魅力ある地域づくりに繋げるため、農業と関係する多様な事業を考えようと呼びかけました。さらに「農林水産業をしっかりやる」という基本にプラスアルファが大切。成功事例をみて取り入れやすいものを農協でも取り入れよう。」と話されました。



末松 広行氏の記念講演



小椋副会長 閉会挨拶

小椋副会長 閉会挨拶

北海道農業協同組合中央会・副会長理事の小椋茂敏副会長は、閉会挨拶にて、「農政が大きな転換点を迎える中、今大会で掲げた「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」を実現するため、道内の意思を集し、組合員・JA・連合会が自らの役割を確認した上で一丸となって取り組みを実践していく。」と話されました。

各議案内容

<議案第1号>

基本目標1. 食料安全保障の強化と持続可能な北海道農業の確立

- ①農地の確保と適正利用の強化による農業生産の展開
- ②需要が期待される食料・自給飼料等の安定生産・供給と農業における環境負荷低減の両立
- ③食料供給基地を担うにふさわしい農業所得の安定確保
- ④組合員の意思結集による農政運動の展開強化

<議案第2号>

基本目標2. JAの組織基盤の強化と健全な経営基盤の確立

- ①協同組合理念の次世代への継承
- ②持続可能なJA経営基盤の確立に向けた経営管理・経営体制の構築
- ③デジタル技術を活用した業務の効率化・生産性向上の追求
- ④事業継続に必要な人材の確保と定着化
- ⑤連合会の横断的な事業展開

<議案第3号>

基本目標3. 農業・食・JAへの理解醸成

- ①アグリアクションによる農業・食・JAへの理解醸成
- ②食農教育の強化・充実による農業・食への理解醸成
- ③地域貢献活動の実践によるJAへの理解醸成